

交流の活性化を願って…

東京ふるさと高陵会が誕生

座光寺の「ふるさと座光寺会」と上郷の「東京上郷会」は、このほど組織を一本化し、「東京ふるさと高陵会」として新たなスタートをきりました。

ふるさと座光寺会は、近年会員の減少が顕著でした。お隣の上郷会でも同じ悩みを抱えており、これを解消するため、組織の統合を図りました。

11月25日に東京霞ヶ関ビルで行われた創立総会には、座光寺から自治会長はじめ関係者が出席。関東圏在住の座光寺・上郷出身者も多数集い、懐かしい思い出話や地元ゆかりの方等による記念公演等で盛り上がり、最後は「高陵中学校校歌」の合唱を行い、旧交を温めました。

今回の組織一本化により、今後は今まで以上に親密な交流の機会がつくられる期待しています。

麻績の里 座光寺便 原号
座光寺便からのお知らせ



麻績の里 座光寺便 原号

平成30年12月発行 ■ 麻績の里ふるさと応援俱楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内)

TEL

0265-22-1401

FAX

0265-22-1475

E-mail

zakouji@city.iida.nagano.jp

お申し込み締切 平成31年1月15日

お届け時期 平成31年1月下旬

※代金は商品到着後にお支払いください。

座光寺 検索

座光寺 19地区探訪⑯ 原



原地区から望む南アルプス

中央自動車道が南北に貫く原地区は、隣接する宮崎・大堤とともに多くの遺跡が発見されており、縄文期から人の定住がありました。

などらかに東に下る丘陵は日当たりがよく、標高が高いことから昼夜の気温差も大きく、りんごを中心とした果樹栽培が盛んです。集落はかつての伊那街道(現・県道飯田飯島線)沿いに集中しています。江戸時代、ここには「二十三屋敷」が置かれています。人々が整然と軒を連ねる様は、今も旧街道の面影を感じられます。

南アルプスを望む景観と古い歴史に彩られた原地区ですが、2021年には座光寺パークリングエリアからスマートICが計画されており、その姿も変わろうとしています。

お正月の歓迎に

「ふるさとパック」は、旬の座光寺農産物の詰め合わせ。ふるさとを離れて暮らす方に、自然の香りや懐かしい味をお届けしています。



写真はイメージです。

ふるさとパック
冬の味覚満載便
2,000円(送料別)



お申し込み先 座光寺自治振興センター内
麻績の里ふるさと応援俱楽部

(TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475)

E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp

お申し込み締切 平成31年1月15日

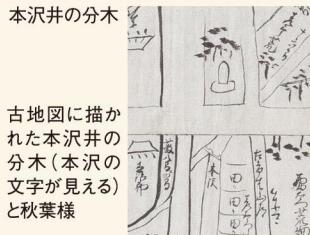
お届け時期 平成31年1月下旬

※代金は商品到着後にお支払いください。





【一里塚】
江戸時代、日本橋を起点に、すべての街道にて里塚が築かれました。高森町出原にある「一里塚」は、古地図にも「一り塚」とあります。



座光寺大根

座光寺の上段地域は、かつて大根の大産地で、「座光寺大根」の名で広く知られていました。一帯の土壤が大根栽培に適していました。生産のピークは大正から昭和初期。養蚕・製糸業が最も盛んだった時代で、飯田市街地や製糸工場で働く人々の需要に応えました。

昭和10年、原に座光寺・上郷・市田村の産業組合(農協の前身)が共同でたくあん漬の製造工場を造ります。新しい早生種による栽培法も導入され、需要はさらに増し、地元だけでなく関西方面にも出荷されました。

街道点景

【並木】

街道の脇には松並木が整備されていました。並木は旅人をなごませ、夏に日陰をつくり、冬は寒風を防ぎました。

明治6年、北の並木に190本、中央の屋敷が並んでいるところの中並木に264本、南の宮崎御林に310本の松が残っています。

本沢井(大井)の分木

南大島川を水源とする本沢井(大井)は、座光寺の中段地帯を潤す中心的な井水です。この井水の水を他の井水に分けることを「分木」といいます。水を平等に分けるために、昔は井の底に平らな木を敷き、水流が定になるように工夫しました。

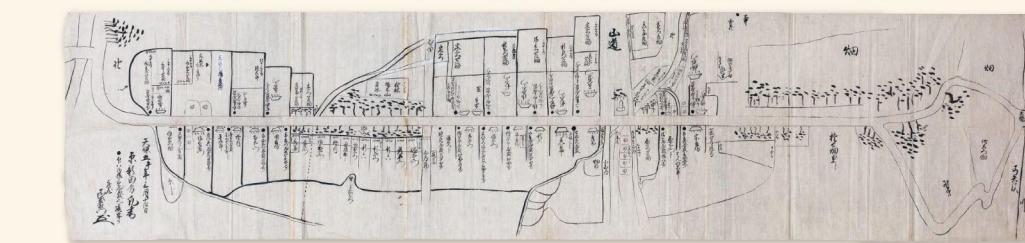
秋葉様の下、座光寺原の信号のところに本沢井の分木があります。切石を敷き並べた立派な胴木(分水石)が置かれ、水流を安定させて本沢井と西の沢井に分水しています。



伊那街道に軒を連ねる「二十三屋敷」



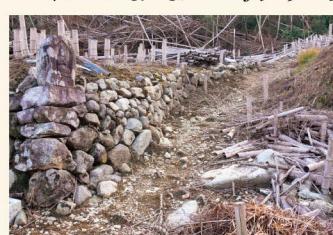
二十三屋敷は各戸とも間口が20間ほどで、縦長の屋敷割が見られ、計画的な集落構成がうかがわれます。市田と飯田の伝馬宿の中ほどに位置し、年貢と諸役が免除され、物代が置かれていました。



伊那街道と二十三屋敷が描かれた古地図(天保5年)。家の絵が屋敷を示し、並木も描かれている

二十三屋敷

昭和26年に市田村が制作したご当地ソング「市田音頭」の歌詞に、「市田乙女と牛牧大根 すねず曲がらずよく育つ」の一節があります。原地区に隣接する高森町の牛牧地籍も、戦前から大根栽培が盛んで、地元では「牛牧大根」の名で評判でした。入耕作で座光寺の大根栽培を覚えた人々が、同じ土壤の牛牧地区に大根の栽培を広め、美味しい大根として地域に知られるようになったと思われます。



現在も残る旧伊那街道

伊那街道

江戸時代、江戸へ出入りする主要道として、東海道・中山道・奥州街道・日光街道・甲州街道の五つの街道(五街道)が整備されました。一方、中山道塩尻宿から伊那谷を通り、名古屋・豊橋へ至る脇往還として伊那街道も整備されました。

座光寺の伊那街道は、現在の県道とほぼ同じところを通っていました。旧街道の北の端(高森町との境)は、現在のよう西に迂回して沢を渡るのではなく、写真の古地図のように東に下っています。現在も道の一部に石垣が残されています。